

白石恵理子	しらいし えりこ	滋賀大学教育学部	はじめに
木下 孝司	きのした たかし	神戸大学大学院人間発達環境学研究所	
			I
河原 紀子	かわはら のりこ	共立女子大学家政学部	II 1章
松田 千都	まつだ ちづ	京都文教短期大学幼児教育学科	II 2章
西川由紀子	にしかわ ゆきこ	京都華頂大学現代家政学部	II 3章
寺川志奈子	てらかわ しなこ	鳥取大学地域学部	II 4章
藤野 友紀	ふじの ゆき	札幌学院大学人文学部	II 5章
服部 敬子	はっとり けいこ	京都府立大学公共政策学部	II 6章
楠 凡之	くすのき ひろゆき	北九州市立大学文学部	II 7章
白石 正久	しらいし まさひさ	龍谷大学名誉教授	III おわりに

2020年11月現在

はじめに 3

## I 発達保障のための子ども理解の方法

発達保障のための子ども理解の方法 木下孝司 14

はじめに 14

- 1 発達保障と発達診断 15
  - (1) 知的能力を測定する試みとその指標の変質 (2) 「～歳レベル」という表記の限界
  - (3) 発達保障と発達診断の始まり
- 2 発達理解の基本 19
  - (1) 発達保障のための発達診断に求められる視点 (2) 何のために発達を理解するのか
  - (3) 理論を学びつつ、子どもの事実から「理論」を見直す (4) 質的転換をとらえる (5) 連関をおさえる (6) 発達の原動力をとらえる
- 3 子ども理解のための二つの方法と相互の学び合い 24
  - (1) 心理学的子ども理解と実践的子ども理解 (2) 心理学的子ども理解における実践的視点の導入 (3) 実践的な子ども理解における仮説生成的視点の導入

さいごに 31

## II 発達の段階と発達診断

1章 乳児期前半の発達と発達診断 河原紀子 34

- 1 乳児期前半の発達の特徵 34
  - (1) 乳児期前半の三つの発達段階 (2) 生後4か月ごろの「生後第1の新しい発達の力」の誕生 (3) 乳児期後半へ向けての飛躍的移行
- 2 発達診断の方法 41
  - (1) 「生後第1の新しい発達の力」の誕生を確認するために (2) 乳児期後半へ向けての飛躍的移行の特徴を確認するために
- 3 乳児期前半における保育・教育について考える 47
  - (1) 姿勢を変換させる (2) 五感にはたらきかける (3) 正面から関わる (4) くすぐり遊び (5) 友だちやきょうだいに気づく (6) 保育事故をめぐって

## 2章 乳児期後半の発達と発達診断 松田千都 53

- 1 乳児期後半の発達の特徵 53  
(1) 生活 (2) 姿勢・運動面の発達を中心に (3) 手指による物の操作の発達を中心に  
(4) 社会的相互作用とコミュニケーションの発達を中心に (5) 対人関係の発達を中心に
- 2 10か月児の発達診断 61  
(1) 10か月ごろの発達の特徵 (2) 発達検査の手續さと観察点
- 3 保育の中で大切にしたいこと 70  
(1) 1日24時間を視野に入れて生活を支える (2) 自分から関わりたくなる魅力的な環境をつくる (3) 物の操作とやりとりをつなげる (4) 子どもの「安全基地」になる (5) 子どもたちのやりたいことの重なりをさぐる

## 3章 1歳半の質的転換期の発達と発達診断 西川由紀子 75

- 1 生活場面における1歳半の質的転換期 75  
(1) 意図の伝達にみられる変化 (2) 調整活動の発達 (3) 「間」を共有する力の発達
- 2 発達診断の方法 82  
(1) はめ板の回転課題 (2) 積木つみの課題 (3) 器への入れ分け課題 (4) 描画課題  
(5) 2個のコップ課題 (6) 指さしの課題
- 3 1歳半の質的転換期と教育指導 88  
(1) 子どもの力を引き出すおとなの役割 (2) 言葉の土台を育てる (3) 「間」のある人間関係 (4) 子どもと子どもの関わりの展開 (5) 「だだこね」や「かみつき」について (6) 自己主張が少ない子どもへの対応について

## 4章 2～3歳の発達と発達診断 寺川志奈子 98

- 1 2, 3歳の発達の特徵 98  
(1) 身体運動の発達 (2) 対比的な認識と比べる言葉 (3) 自我の拡大から充実へ  
(4) 遊び
- 2 発達診断の方法 106  
(1) 発達検査の場面への導入 (2) 発達診断の実際
- 3 2～3歳ごろの教育指導の方法 118  
(1) 生活の中の発見を大切に、「見立て・つもり」を豊かに育てる (2) 「違い」がわかって、自ら選び取ることでできる自我を育てる (3) 他者との関係の中で「大きい自分」への誇りを育てる

## 5章 4歳の質的転換期の発達と発達診断 藤野友紀 123

- 1 4歳の発達の特徵 123  
(1) 4歳の発達の位置 (2) 全身運動の発達 (3) 手指操作の発達 (4) 言葉の発達  
(5) 自我の発達
- 2 発達診断の方法 131  
(1) 発達診断の視点 (2) 発達診断の実際
- 3 4歳の保育・教育指導を考える 138  
(1) 気持ちの揺れをありのままに受けとめる (2) 揺れを乗り越え自信と意欲を丁寧に積み上げる (3) 「みんなの中の自分」を味わい喜べる活動を (4) こっこ遊びとルール遊びを楽しく豊かに (5) 共同でつくりだす遊びと環境の確保 (6) 発達に特に援助を求めている場合

## 6章 5～6歳の発達と発達診断 服部敬子 145

- 1 5, 6歳児の発達の特徵 145  
(1) 仲間との遊びに夢中になる5～6歳児 (2) 身体・運動面での変化 (3) 「間(あいだ)」の世界をとらえる——発達の3次元の形成 (4) 厳密な比較と「チガウけどオナジ」世界の発見 (5) 生後第3の新しい交流の手段の発生 (6) ジブンの誕生と自己形成視
- 2 発達診断の方法 151  
(1) 5～6歳の発達の位置と発達診断の視点 (2) 発達診断の実際
- 3 5～6歳ごろの教育指導を考える 164  
(1) 「第3の世界」でホンモノとの出会いを (2) 自分たちの生活を自分たちでつくる——複数の時間軸を (3) 仲間の中で信頼性を培う——教え合い、話し合い

## 7章 7～9歳の発達と発達診断 楠 凡之 169

- 1 7歳児の発達の特徵 169  
(1) 自分の成長の自覚と仲間への共感 (2) 系列化操作の獲得 (3) 文脈形成力の発展
- 2 9, 10歳ごろの子どもたちの発達の特徵 171  
(1) 具体的思考から抽象的思考、論理的思考への移行 (2) 目に見えない関係を理解して「変換」していく力の獲得 (3) 「集団的自己」の誕生と自治の力の発達 (4) 相互的な関係理解と友人関係の深まり (5) 自己客観視の力の誕生
- 3 発達診断の方法 177  
(1) 主として9, 10歳の発達の力量をみる課題 (2) 他者理解と自己認識のありようを検討する課題
- 4 教育指導上の留意点 182  
(1) 7歳ごろの教育指導上の留意点 (2) 9, 10歳ごろの教育指導上の留意点

### Ⅲ 「発達障害」と発達診断

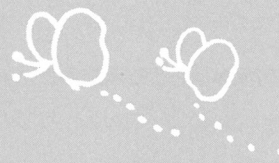
「発達障害」と発達診断 白石正久 192

- 1 「発達障害」をどう理解するか 192  
(1) 時代を50年さかのぼる (2) 発達を理解する基本視点としての連関と自己運動 (3) 発達は内的矛盾を原動力とする自己運動
- 2 「発達障害」をとらえる 199  
(1) 「発達障害」とは何か (2) 「発達障害」の現れと発達診断の視点
- 3 「発達障害」と教育・保育 212  
(1) 「発達障害」への教育・保育の視点 (2) 「発達の原動力」を呼び起こす「発達の源泉」への視野

おわりに 219

執筆者一覧 8

カバーデザイン 千葉香織



# I

## 発達保障のための子ども理解の方法